

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和2年10月10日

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー 竹田知広、門谷牧子、中村誓、多賀野広数、福田敬三、岩崎真純、今井達仁、安部幸子、大澤里佳、鹿島美幸、時岡信浩、浦川良太郎

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1	8	1	1	11

前回の改善計画

訪問シート作成と更新を継続させると同時に、各担当職員がご利用者の個別性をより尊重した内容を盛り込むことで、よりご本人の生活に寄り添った支援を目指す。
これまでカンファレンスにて定めた内容を周知させる事としていたところ、担当職員の判断により即時に対応を開始させ、カンファレンス時にそのモニタリングを行う。

前回の改善計画に対する取組み結果

モニタリングの内容を支援に反映させる速度を重視する事で、ご利用者の体調や、生活環境の変化に対し、支援内容や訪問頻度の変更を行う事ができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	1	8	2	0	11
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	0	10	1	0	11
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いの声掛けや気遣いができていますか?	3	7	1	0	11
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	1	5	4	1	11

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

各職員が話し合い(カンファレンス)に参加するほか、個別ファイルの閲覧により情報を得る事が出来ている。また、直接介助中に積極的に本人と話をするように心がけてできている。
職員間の情報共有もカンファレンスの定期開催によりできるようになっているほか、訪問シートの作成、更新により、本人の生活に合わせた支援が行えている。
単身者で、直接会う事のない家族の意向についても、ケアマネジャーを通じ把握する事が出来る。また、送迎時に意識してご家族とコミュニケーションを取るようになっている。
介護職員も面接や、サービス担当者会議に参加する事により事前の情報収集を行う事が出来ている。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

単身高齢者の場合、また同居であっても、ご家族と直接会う機会がすくない。そのため、直接ご家族の意向を確認する機会がない。
利用開始前の面接や訪問はケアマネジャーのみになっている。また、新規ご利用者宅への訪問について、役割分担により初期に訪問した職員と後になる職員間での情報量が大きい事がある。
体制的に宿泊サービス利用や、高頻度、長時間の通いサービス利用の要望については応えられていない。
ニーズや情報について、一部の職員が知っていても、全員に情報がいきわたらない事がある。また、家族、介護者の希望と本人の希望が食い違う事があり、対応に悩むことがある。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)

家族とも十分なコミュニケーションをとる為に、本人の情報を整理して伝えられるように準備しておく。毎週のカンファレンス時期に合わない場合でも、新規利用のある場合にはカンファレンスを行えるようにする。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和2年10月10日

2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)

メンバー 竹田知広、門谷牧子、中村誓、多賀野広数、福田敬三、岩崎真純、今井達仁、安部幸子、大澤里佳、鹿島美幸、時岡信浩、浦川良太郎

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0	4	4	3	11

前回の改善計画

・より個別性を向上させる為、チームで収集した情報をもとに、ご利用者の担当ケアワーカーが計画作成担当と共にモニタリングを行う、それを基に次期ライフサポートプラン作成を行ってゆく。

前回の改善計画に対する取組み結果

担当職員が中心となりご利用者に関わり、カンファレンスでの協議により、本人の目標に対してチームで取り組む能力が向上した。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?	1	5	5	0	11
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	1	6	3	0	11
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	1	6	4	0	11
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	1	4	5	1	11

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

記録の充実を意識し、支援内容を詳しく、また気づいた点も含めて記録する事で、情報共有を行っている。普段の関わりの中で、ご本人の希望を聞き取るように努めている。ケアマネジャーを含め、モニタリングは実施できており、したい事、続けてゆきたい事について聞き取りを行い、記録ができています。

毎週のカンファレンスにより、担当介護職員を中心に職員間の情報共有が出来ている。そのカンファレンスでは担当職員以外も気が付いた点や不明な点があれば確認、発信が出来ている。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

ご利用者の当面の目標「～したい」を目指した関わりが出来ていない方もある。計画的な取り組みをする際に希望を聞き取り切れていない。また、担当介護職員が担当するご利用者以外の目標を把握していない事もある。これまでできていた事でも、体力の衰えにより出来なくなっていく。その変化に対し別の目標を立てる事が出来ていないことがあった。課題や希望の確認は出来ていても、目標の計画までには至っていないことがあった。また、今、困っている事に焦点とすることが多く、ご本人の望む目標にまで意識が出来ていない。ご本人が明示的に意思表示が出来ない方である場合汲み取る技術が必要。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)

・個別性の高い目標について、担当職員が計画的に取り組むことができるよう、スケジュールを立てていく。

3. 日常生活の支援

メンバー 竹田知広、門谷牧子、中村誓、多賀野広教、福田敬三、岩崎真純、今井達仁、安部幸子、大澤里佳、鹿島美幸、時岡信浩、浦川良太郎

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	3	6	0	2	11

前回の改善計画

- ・個別性を重視しつつ、支援内容に優先順を設定し、必要な支援を適宜行う事ができるよう「訪問シート」を整理する。
- ・訪問同行を行い、支援内容の均一化を図る事で、対応する職員によるサービスの質に差が無くしてゆく。

前回の改善計画に対する取組み結果

訪問シートの更新を適切に行う事で、より個別性の高い支援を行う事が出来るようになった。同行訪問の頻度は目標を下回ったが、課題のあるケースや、新規採用職員のOJTにおいては重点的に行う事ができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?	1	4	5	1	11
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	1	10	0	0	11
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	1	8	1	1	11
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	2	9	0	0	11
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	3	7	1	0	11

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

カンファレンスによって情報収集が出来ており、支援の変更点、不明な点についてはそのつど確認する事が出来ている。また、ご利用者の状態変化にいち早く気づけており、状況に合わせた介助は行えている。複数名による同行訪問により、基礎的な支援内容は理解し、把握する事が出来ており、支援内容の差も確認して対応している。また、個別に訪問シートを作成し、必要に応じて更新する事が出来ている。新採職員はプリセプター(指導職員)から多様な情報を得る事ができた。支援内容に変更があった時には、訪問シートを更新することができた。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

通いサービス利用が中心である方は、ご本人の暮らしづりがあまり把握できていない。以前の暮らしについて10個以上上げられない方もいる。また、生活歴について、わかっているが支援につなげる事が出来ない。知っているだけとなっている。言葉を発するのが難しい方の思いがわからない。ご利用者との関係性や経験の違いからすべての職員が、同じ支援を行う事は実現できない。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)

要介護状態の重度化にも対応できるよう、介護技術の向上と標準化を図る。その為に職員個別に目標を定め、技術演習や研修を行う機会を持つ。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和2年10月10日

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 竹田知広、門谷牧子、中村誓、多賀野広数、福田敬三、岩崎真純、今井達仁、安部幸子、大澤里佳、鹿島美幸、時岡信浩、浦川良太郎

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄	よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組めましたか?	0	2	5	4	11

前回の改善計画
 ・直接的に事業所が行うサービス内容の他に、ご本人が関わるその他の公的サービスや、社会資源について、ケアプランにて整理を行う。

前回の改善計画に対する取組み結果
 職員個々でご家族や地域と直接関わる事は多くないが、役職者や計画作成担当が中心となり、地域包括支援センターとも協働する事で、社会資源について整理する事ができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄	よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
① 本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?	2	6	3	0	11
② 本人と、家族・介護者や地域との関係が切れなないように支援していますか?	1	6	4	0	11
③ 事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?	1	6	4	0	11
④ 本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	0	4	6	1	11

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
 コロナ禍ではあるが、感染予防に配慮しつつ個別外出の企画により、買い物など行く事が出来ている。事業所として、その方にあった公的サービスや社会資源を利用した支援を行っている。また、ご本人、ご家族に積極的に話しかけ、自宅での様子について聞き取りを行っている。家族との関係を理解し、協力してご本人への支援につなげる事が出来ている。ご本人の状態に応じ、生活環境(しつらえなど)を変更させてゆく事が出来ている。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
 訪問サービス利用の無いご利用者がご自宅でどう過ごされているかイメージがわからない。経済的な事情により制限がある場合、訪問リハビリなど効果の期待できるサービスが利用できない事がある。今年度は特にコロナ禍による自粛によって民生委員や、社協など関わる機会が無い。そのように地域の方と関わる機会が無いが、訪問時などには挨拶をして、話しかけられることもある。ご本人がこれまで家族や地域住民と関わりを持たなかったケースもあり、新たに関係性を作るのも難しい。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)
 西京居宅包括連絡会議と協働し作成した地域資源一覧表を基に、社会資源との協働を図り、事業所だけでは対応が困難なニーズの解消を目指す。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和2年10月10日

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 竹田知広、門谷牧子、中村誓、多賀野広数、福田敬三、岩崎真純、今井達仁、安部幸子、大澤里佳、鹿島美幸、時岡信浩、浦川良太郎

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1	5	2	3	11

前回の改善計画
ご利用者に対するアセスメントを進め、必要な量のサービスを見極めた上で、ご利用者一人あたりに対する、訪問、通い、入浴等のサービスを増やすだけではなく、減らしてゆく取り組みを同時に行ってゆく。

前回の改善計画に対する取組み結果
サービス量を単純に減らしてゆくのではなく、通いサービスを買い物同行に変更するなどの代替えの手段を提案し、よりニーズに沿った支援を実現させることができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	1	5	4	1	11
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	1	8	1	1	11
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	3	8	0	0	11
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	1	9	1	0	11

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
事業所の支援だけでは支える事が出来ないケースが多く、多様なサービス、社会資源を組み合わせることで本人の生活を支える事が出来ている。また、ご利用者のニーズを見極め、無駄なサービスとならないように気を付けている。
ご利用者の状態の変化についてカンファレンスでしっかりと情報共有をしている。
ご家族の介護負担軽減の為に、通い宿泊サービス利用を適時提供する事をしている。
買い物時など、商店のスタッフとの関係を繋ぐことができています。
柔軟な対応を行った上で、ご本人の要望だけではなく、必要に応じた支援を行う事が出来ている。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
本人や家族にできることが増え適切なサービス量が少なくなっても期待値が大きくある場合、支援を減らすことは難しい。また、家族の介護負担を減らすことも目標となるが、できることまでしてしまわないように調整することが難しい。
柔軟なサービス提供を行っているが、その為にご本人、ご家族からより多くのサービス利用を望まれる事もあるなど、十分な説明が行えていない。
サービス量の調整はされているが、目的や支援を減らした後の注意事項について周知しきれていない。
通いサービスでは家族の要請と本人の希望や体力があわず、しんどくなる事がある。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)
事業所で支援を抱え込まず、ご家族の支援や地域の社会資源を意識して支援の輪を拡大させてゆく事ができるよう、働きかける。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和2年10月10日

6. 連携・協働

メンバー 竹田知広、門谷牧子、中村誓、多賀野広数、福田敬三、岩崎真純、今井達仁、安部幸子、大澤里佳、鹿島美幸、時岡信浩、浦川良太郎

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0	7	1	3	11

前回の改善計画
 ・利用者に変化があった場合や、連携して支援を行う際に担当職員や計画作成担当以外の職員でも即時に対応が行えるよう、ご利用者毎に、他の事業所や地域におけるキーパーソンについて連絡網を整理する。
 前回の改善計画に対する取組み結果
 緊急時に使用する個人情報の整理を行ったほか、他事業所からの支援時の同行するなどして連携の質を高める事ができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか？	0	2	2	7	11
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？	0	2	1	8	11
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか？	0	2	1	8	11
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？	0	2	2	7	11

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
 事業所内での連携は取れている。また、他事業所などに対してはケアマネジャーが対応し連携を図っている。この一年はコロナ禍により様々な会議や部会が中止することが多かったが、地域密着協の会議などは、zoom（インターネットシステム）を利用して参加する事ができた。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
 コロナウイルス流行の為、予定していた会合が中止となった。（多数）
 一般職員の場合、地域の事業活動に参加する機会がほとんど無いが、今年はコロナ禍もあって関りが全くなかった。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)
 IT の活用することにより地域や他事業所の連携について強化し、特に地域包括支援センターとの情報共有を密に取ることで、地域の目としての機能や地域活動への支援もできるようにする。

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	0	7	4	0	11
<p>前回の改善計画</p> <p>・各職員が運営に携わる意識を高め、その意見をより事業所の運営に生かしてゆく事ができるように、役職者が部署毎の状況や現状の課題について定期的に協議する機会を作り、その内容を現場職員にフィードバックさせてゆく。</p>						
<p>前回の改善計画に対する取組み結果</p> <p>定例会議(小規模多機能会議1回/月)にて、運営に関する情報共有を行い、年間行事や人員体制について、協議のうえ進める事ができている。</p>						

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができますか?	0	5	3	3	11
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	0	9	2	0	11
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1	7	3	0	11
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?	0	3	5	3	11
できている点		200字程度で、できていることと、その理由を記入すること				
<p>管理者、ケアマネジャーが同じフロアにいるので、小多機会議(1回/月)や、それ以外の時でも意見を言いやすい環境にある。また、ご利用者、ご家族からの意見等については、すぐに対応を行う事が出来ている。緊急時対応の研修など、実現する事ができた。地域から得た情報はすぐに報告している。</p>						
できていない点		200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること				
<p>ご利用者とご家族の意見、希望に相違があった場合に、本人の意見がなかなか思うように実現しにくいところがある。</p> <p>施設運営について管理者から年度末や半期の収支状況など内部メールで周知はあるが、日常的に意識することがないので、問題があると思えないという職員もいる。</p> <p>・地域の方と接する機会が無い。</p>						
次回までの具体的な改善計画				(200字以内)		
<p>ご本人やご家族からのご意見等について、報告書作成などの通常の処理を行う他に、振り返り検討・共有する機会を持つことで、対応する力の向上を目指す。</p>						

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和2年10月10日

8. 質を向上するための取組み

メンバー 竹田知広、門谷牧子、中村誓、多賀野広教、福田敬三、岩崎真純、今井達仁、安部幸子、大澤里佳、鹿島美幸、時岡信浩、浦川良太郎

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1	9	1	0	11

前回の改善計画
・研修テーマにより、開催時期や実施時間を調整させることで、研修の参加率を向上させると共に、これまで参加が難しかった職員が同様に機会を持てるようにしてゆく。

前回の改善計画に対する取組み結果
事業所内研修の日時を調整することで、これまで参加が困難であった、パート職員にも研修を受ける機会を増やすことが出来た。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	2	8	1	0	11
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	1	6	3	1	11
③	地域連絡会に参加していますか	0	2	1	8	11
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	0	7	4	0	11

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
受験対策勉強会を有志で行い、今年度も介護福祉士合格率 100%となった。また、資格所得の為の外部研修や事業所での勉強会などに参加する事ができた。
事業所内研修は年間計画どおりに実施できており、講師も各職員が担当し、開催することで、全員が自ら学ぶ仕組みとなっていた。また、外部兼中は中止になることが多かったが、ZOOMを使った参加や、インターネットを使った情報収集および周知によりスキルアップを図ることが出来た。
毎週のカンファレンスを通じ、常にリスクマネジメントに取り組んでいる。ヒヤリハット報告から、ご自宅や事業所内の環境整備を進める事が出来ている。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・コロナウイルス流行の為、外部研修に参加する機会が無かった。
・他事業所や地域住民と一緒にを行う形での勉強会、研修を行う事が出来ていない。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)
外部の研修参加などが困難な状況であるが、遠隔での研修や勉強会への参加により、事業所全体でのスキルアップを図ってゆく。

9. 人権・プライバシー

メンバー 竹田知広、門谷牧子、中村誓、多賀野広数、福田敬三、岩崎真純、今井達仁、安部幸子、大澤里佳、鹿島美幸、時間信浩、浦川良太郎

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1	6	3	1	11

前回の改善計画
ご利用者に消費者被害や、それに類する状況に置かれた場合の対応方法について学び、速やかに対応が行えるようにする。

前回の改善計画に対する取組み結果
権利擁護に対する研修の参加や主体的な実施により意識の向上を図る。実際に消費者被害に相当するケースに対しても、ご家族と協力し解決を図ることができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	身体拘束をしていない	7	4	0	0	11
②	虐待は行われていない	9	2	0	0	11
③	プライバシーが守られている	5	6	0	0	11
④	必要な方に成年後見制度を活用している	3	5	0	3	11
⑤	適正な個人情報の管理ができています	3	8	0	0	11

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
個人情報保護について、情報の取り扱いでヒヤットしたことをヒヤリハット報告で報告することで対策を行う事が出来た。
年間研修計画に基づき、内部研修で権利擁護について研修を受ける機会があるなど、各職員が自分を振り返ることが出来ている。
身体拘束に至る前に傾聴することを心掛けるようにカンファレンス等で職員周知できている。それにより、自分の行いが虐待にあたる可能性がある事を常に意識している。
成年後見人制度や、日常生活自立支援事業については、直接関係することは無いが、ともにご利用者の生活を支える事が出来ている。また、ご利用者の消費者被害について未然に予防する事が出来た。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
帰宅願望が強いご利用者に対し、身体拘束にならないようどうすればよいかの意識をもっと高めていく必要がある(どうしようか判断に迷ったときに安易に閉じ込める発想にはなりやすいため)。
フロアでの職員同士の会話にて、個人情報に他に聞こえてくる事がある(個人情報漏洩の危惧)。
個別ファイルや、バイタル測定票がフロアに出しっぱなしになっている事がある。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)
ご利用者の個人情報について不適切な取り扱いとならないように、事業所内でのルールを策定し周知を強化するとともに、職員同士の報告や相談の内容が周囲の利用者や第三者に聞こえる事が無い様に普段のケアの場面においても意識の向上に努める。カンファレンスで毎回意識するように声掛けを行う。

小規模多機能型居宅介護事業所桂坂
令和2年度事業所評価におけるA項目（自己評価）に基づく

令和3年度 事業所目標

令和3年1月14日作成

1	初期支援（はじめのかかわり）	家族とも十分なコミュニケーションをとる為に、本人の情報を整理して伝えられるように準備をしておく。毎週のカンファレンス時期に合わない場合でも、新規利用のある場合にはカンファレンスを行えるようにする。
2	「～したい」の実現 （自己実現の尊重）	個別性の高い目標について、担当職員が計画的に取り組むことができるよう、スケジュールを立てていく。
2	日常生活の支援	要介護状態の重度化にも対応できるよう、介護技術の向上と標準化を図る。その為に職員個別に目標を定め、技術演習や研修を行う機会を持つ。
4	地域での暮らしの支援	西京居宅包括連絡会議と協働し作成した地域資源一覧表を基に、社会資源との協働を図り、事業所だけでは対応が困難なニーズの解消を目指す。
5	多機能性ある柔軟な支援	事業所で支援を抱え込まず、ご家族の支援や地域の社会資源を意識して支援の輪を拡大させてゆく事ができるよう、働きかける。
6	連携・協働	ITの活用することにより地域や他事業所の連携について強化し、特に地域包括支援センターとの情報共有を密に取ることで、地域の目としての機能や地域活動への支援もできるようにする。
7	運営	ご本人やご家族からのご意見等について、報告書作成などの通常の処理を行う他に、振り返り検討・共有する機会を持つことで、対応する力の向上を目指す。
8	質を向上するための取組み	外部の研修参加などが困難な状況であるが、遠隔での研修や勉強会への参加により、事業所全体でのスキルアップを図ってゆく。
9	人権・プライバシー	ご利用者の個人情報について不適切な取り扱いとならないように、事業所内でのルールを策定し周知を強化するとともに、職員同士の報告や相談の内容が周囲の利用者や第三者に聞こえる事が無い様に普段のケアの場面においても意識の向上に努める。カンファレンスで毎回意識するように声掛けを行う。

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 京都福祉サービス協会	代表者	理事長 浅野信之	「くらしに笑顔と安心を」の理念のもとに、京都市に多種多様な介護事業所を持つ法人である。
事業所名	小規模多機能型居宅介護事業所桂坂	所長 管理者	服部順之 浦川良太郎	事業所は桂坂学区の福祉ゾーンに位置し、若西ふれあいの里保養研修センターが担ってきた地域コミュニティの拠点としての役割を踏まえ、高齢者の居場所づくりの推進や、地域住民同士の交流の場の提供など、地域で高齢者を支えるネットワークの構築を進めていく。また、地域との関係性を大切にしながら、利用される方がいつまでも住み慣れた地域で暮らし続けられるように支援している。

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する 取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	9 項目の自己評価から、課題を抽出し具体的な目標設定を行った。 ※別紙参照	9つの取り組み結果、できていない点、できていない点を参照願います。	・本当に苦労されていることを感じました。また、職員高の意識統一と情報統一の難しさなど、福祉事業の苦勞が表現されています。具体的な改善計画が定まっていて、一つひとつ着実に改善していけばとても良い事業所になるのではと思います。 ・適切な自己評価をされていると思います。コロナ禍での感染症対策で大変かと思いますが、可能な範囲で業務を展開ください。 ・⑥「ほとんどできていない」⑨「良くできています」ですが、全体としてコロナ禍の中で頑張っていると思います。このような機会にZOOMなどを日常的な使用にしてください。	別紙のとおり、抽出した課題をもとに目標を定めつつひとつずつ改善していきます。 ※別紙参照
B. 事業所のしつらえ・環境	日常的に行う清掃のほか、駐車場前の花壇に植物を植えることで、明るく親しみやすい環境づくりを取り組む。	今年もオクラやトマトのほか、ヒマワリや朝顔などの植物を駐車場前に作った花壇で育てたが、野黨が野菜を食うにきたため、地域への影響も考え、野菜の栽培を取りやめました。	・野生生物、特に野黨が多く出没する地域なので、野菜や果物の栽培は難しいですね。花については、事業所の印象や雰囲気をよくする意味でも良い取り組みだと感じます。いつも事業所の表は清潔感があふれていると感じています。 ・野黨は危険なので、適切と判断します。 ・野菜の栽培は難しいかもしれませんが、花があるところが和みます。水やり担当を決めるなどして、継続してやっていくのもいいかもしれません。	清潔で明るく親しみやすい事業所となるよう、引き続き、花壇の活用と清掃を行います。
C. 事業所と地域のかかわり	ふれあい祭り、夏祭りへの継続的な参加を行うとともに、施設に訪れる地域の方へ向け、事業所の取り組みや、行事についてPRするためのポスターをFに掲示する。	今年度は感染予防により全ての行事が中止になるほか、交流スペースの貸し出しも中止し、できるだけ接触を避けていたことから関りはほとんどなかった。秋の統一グリーンデーには管理者とケアマネが清掃に参加しました。	・未曾有の災害ともいえる感染症対策で、周辺の施設も含め関わりを持つ事が困難な状態が続いています。どの段階で通常に戻るかは定かとはなりません。次年度は地域との関わりを戻していくロードマップが描けたらと思います。 ・コロナ禍で適切な関わりと思っています。 ・コロナ禍がしばらく続きそうです。適切な対応としたいと思います。	コロナ禍でできる活動が制限されていますが、交流スペースの貸し出し、地域各種団体とのかかわりなど、状況を踏まえながら、計画的にかかわりを持ってまいります。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>事業所のご利用者以外の、地域にて心配されている高齢者の暮らしを支えるため、地域包括支援センターや民生児童委員との情報共有を継続させる。</p>	<p>運営推進会議にて地域の困りごとという項目を設け、何かあれば検討できるようにしました。また、日ごろの支援の最中でも地域に目を向け地域包括支援センターと情報共有を図るために努めていきましたが、実績はほとんどありませんでした。</p>	<p>・全くの新規を集めることは困難な作業だろうと思えます。提案ですが、新規の困りごとよりも、利用者の困りごとや要望から見えてくる要望が地域にも存在するのかわ確認し、事業所として取り組める内容か、他の社会資源を活用なのか検討する等の方向性で進めてほしいです。 ・サービスについてはがついていない方を地域（民間）、包括と連携し、対応いただきありがとうございます。お強いです。 ・実績がほとんどないとのこと。しばらく継続しましょう。</p>	<p>・利用者への要望として挙げられることを運営推進会議で取り上げ、地域の要望として他にもあるのか確認する。 ・地域包括支援センターと協働し、サービスにつながついていない利用者の見守りを行う。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>地域課題について情報の共有を行うとともに、問題を掘り下げ地域ケア会議と連動した取組みを行ってゆく。</p>	<p>今年度は新型コロナウイルスの感染予防の取組みにより会議も書面会議になることが多かったため、積極的な情報共有はできませんでしたが、地域の方から、地域活動の終了等情報をいただきました。</p>	<p>・会議開催が難しい中なので、会議を活かした取組みは難しかったと思います。来年もこの状況が継続することを前提とすると、ZOOM等のITを考える必要があるかもしれませんね。 ・コロナ禍では適切だと思います。 ・コロナ禍がしばらく続きそうです。適切な対応をお願いします。</p>	<p>運営推進会議の開催方法をITを用いるなど検討し、参加の少ない家族等も参加しやすいような働きかけを行う。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>福祉ボランティア消防互助会による連携を継続、強化させてゆく。 非常食、非常時用の物品を整理し、取り扱いに習熟する。</p>	<p>非常食を各フロアに設置したほか、カセットポンプで動く非常用発電機も設置。訓練等により職員への周知も行っていきます。</p>	<p>・防災力、事業所のみでの力では難しいところが多いと思います。周辺施設との連携や災害時の周辺施設能力等、情報共有を進められたらと思います。(周辺施設の災害時のハート能力や人的なリソースの情報は共有が今後あれば心強いのではないかと考えています。) ・非常時の備えもされており、適切と思いますが、非常時は想定外のことがかかりますので、臨機応変な対応も心掛けてください。 ・できることから着実に実行していきますよう。</p>	<p>非常時に備え、消防互助会にて、各事業所の規模、人員配置、施設見取り図等の情報を共有する。</p>